美しいまちづくりのために

かなざわ景観だより

LANDSCAPE NEWS OF KANAZAWA

第5号

平成十年（一九九八）五月発行
■企画編集／景観だより編集委員会
■発行／金沢市広坂一丁目一─一
金沢市都市政策部まちなみ対策課
（〇七六）二二〇─二三六四

こまちなみに出会う

昔も今も変わらぬ息づかい…

金沢には、貴重な歴史的建築物が今もなお、数多く残っており、個性的なまちなみに歴史と文化の彩りを添えています。「こまちなみ」とは歴史的風情を残す、そんなちょっとした良いまちなみのことを言います。また、「こまちなみ」は単にまちなみとして美しいだけではなく、そこに住む人々の生き生きとした生活の匂いの感じられるまちなみでもあります。

旧鶴来街道・蛤坂

きゅうつるぎかいどう・はまぐりざか

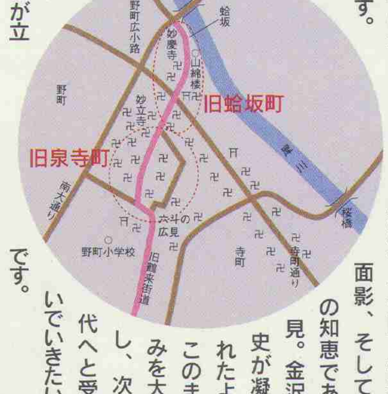
金沢市内には寺院が集積している場所が三カ所あります。その一つが犀川左岸に広がる「寺町寺院群」です。現在ではかなり広い範囲で「寺町」という町名が付いていますが、かつては野田山へと続く道沿いを「野田寺町」、鶴来へと続く旧街道沿いを「泉野寺町」と呼んでいました。そして、この旧鶴来街道の起点となっていたのが、犀川大橋詰にある蛤坂です。

蛤坂を登って行くとすぐ左手に大きな木造三階建の建物が見えます。市の指定保存建造物である「山錦楼（西原家）」です。また右手に位置する「妙慶寺」は、元和元年（一六一五）この地に移転してきたもので、これを機に寺町の建設が進んだとされています。

寺町大通りを渡ると、通りに面しては旧街道沿いらしく建物が立ち並んでいるのに対し、その背面には寺院の境内が広がっていることがわかります。江戸時代、敷地を与えられてこの地に移ってきた寺院の門前には多くの町家が立ち並び、他の町人町とよく似たまちなみが形作られ、参詣客や街道を利用する人々で大変賑わっていたといいます。地区内に点在する切妻平入りの伝統的な町家は、往時の面影を今に伝えています。そして、このようなまちなみを縫うように現れる寺院の山門や土塀、その奥に広がる境内の緑は、まちなみに変化を与えるとともに、このまちの特徴となっています。

通りの突き当たりには市内で最大の「六斗の広見」があります。小路が幾つか集まった所に広がる広見は、子ども遊び場や井戸端会議の場所としてだけではなく、時として防災拠点としての機能をも果たし、現在でも多くの人々に親しまれています。

集積する寺院、街道筋の面影、そして先人の知恵である広見。金沢の歴史が凝縮されたようなこのまちなみを大切にし、次の世代へと受け継いでいきたいものです。



まちのれきし

蛤坂は、藩政前期にはその地にあった寺の名前から妙慶寺坂と呼ばれていた。傘をさすとすれ違えないほどの悪路で犀川の洪水の度に崖崩れしたが、そのままに放置されていたところ、享保十八年（一七三三）の大火で多数の家屋が焼失、けが人も出たため、藩は町家を後退させて道路を開いた。「焼けて口を開いた」というので、それからこの坂を蛤坂と呼ぶようになり、坂の周囲は蛤坂町と称したという。

また、今の寺町通りから旧鶴来街道の六斗広見までの間は泉野寺町と呼ばれており、一帯は城下と白山ろくの村々とを結ぶ旧鶴来街道の玄関口として発展してきた。

昭和四十二年の住居表示で、旧の野町一～四丁目、蛤坂町、泉寺町、三間道の各一部が野町一丁目に、また蛤坂新道、六斗林三丁目、泉寺町、蛤坂町の一部が寺町五丁目に町名変更されている。

（参考文献『金沢・町物語』、『金沢百年　町名を辿る』いずれも能登印刷出版部）

まちのひと

野町校下町会長
連絡協議会会長
中川貞二（72歳）
金沢市寺町
五－六－四十六

この界わいでは、昭和三十年代前半迄は多くの荷馬車が行き交い、その後は路線バスが家の軒をかすめながら通行した時代もありました。通りには、お寺参りの人のための花屋や子供相手の駄菓子屋を始め、米屋、炭屋、薬局、駄菓子屋など多くの店がありたいそうなにぎわいをみせていました。

お寺の境内や墓場は子供たちの絶好の遊び場で、雨の日には本堂に上がりこんだり、時には墓石を倒すなどの悪さをする者もあり、住職に叱られたものです。また、学校の授業がおわると、広見では拍子木の音を合図に紙芝居が始まり、子供達が群がったことを懐かしく思いだします。

今では、日中は妙立寺参詣の人々が土産物を買い求めてまちを散策し、そのにぎわいにはかつてをしのぐものがありますが、アパートなどが増えて、昔ほど親密な近所づきあいが見られなくなったことが寂しくもあります。住む人、訪れる人のためにこのまちなみを大切にしていきたいと思います。

景観美 カタログ

第20回金沢都市美文化賞

金沢ブルワリーガーデン
（長土塀）
漆喰を思わせる白の壁面とリズミカルに連なる切り妻屋根が、まさに酒蔵を連想させます。

金沢大学平和町キャンパス
（教育学部附属幼稚園・小学校・中学校）（平和町）
周辺の景観に配慮した柔らかなイメージを創出する配色で、町の新しい雰囲気づくりに貢献しています。

天神町緑地
（天神町）
近所の椿原神社になじむ様に鳥居に擬した瓦屋根の門を設置。せせらぎ、回廊などもあり、周辺の家並みとマッチしています。

金沢市十一屋
福祉交流センター（十一屋町）
屋根に黒の日本瓦を使用し、全体は町家風のイメージで、建物の持つ線形の美しさを感じさせます。

金沢駅通り線　修景整備工事
（安江町、本町１丁目）
水と戸室石による「せせらぎ」の造成は、ビルの立ち並ぶ近代的景観の中に金沢らしさと安らぎの空間を創出しています。

冨木医療器（株）本社社屋
（問屋町）
金沢問屋センター内にあり、外観の配色に配慮して、周辺の景観に調和したすっきりした建物になっています。

金沢市民芸術村
（大和町）
古いレンガ造りの倉庫を生かすため、外壁をそのまま残して再生し、金沢の新しい名所になっています。

リファーレ（本町）
格子をデザインモチーフとした統一感のある外観で、金沢都心軸の中心部にふさわしい新たなランドマークになりました。

美里医院
（東蚊爪町）
田園の中にあり、切り妻や白壁で民家風に表現された外観は、地域住民に親しみやすさと開放感を提供しています。

石川県銭屋五兵衛記念館
（金石本町）
「蔵」が立ち並ぶイメージを表現した建物で当時のまちなみを感じさせるとともに、海の豪商銭五を象徴しています。

気配り賞

湯涌温泉
板坂理容・美容院
（湯涌町）
切り妻屋根と淡黄色の壁を用いた落ちつきのある和風外観が、湯涌の雰囲気づくりに貢献しています。

第10回いしかわ広告景観賞

㈱浦田甘陽堂
（泉野町）
創作をイメージするステンレスサインと、白と黒の古風なのれんが、店舗のイメージを醸しだしています。

リファーレ管理組合（本町）
素材、色調、デザイン照明とともに十分に洗練され、建物のボリュームの中で際立つサインになっています。

㈱太陽企画（太陽丘）
ログハウス調のサインは街全体のシンボルになっており、統一された色調で温かみを感じさせます。

㈱中田屋（元町）
老舗をイメージしたファサードの中で、ロゴ体のサイン文字と壁面のラインがほどよく調和しています。

㈱スベニアン風月堂（石引）
テントの青色と文字の赤色がファサードの中でアクセントとなり、周辺のまちなみとうまく調和しています。

中村酒造㈱（長土塀）
建物のスケールとのれんのあしらいが素晴らしく、ファサードと合わせて、金沢らしさを感じさせます。

建築美の集大成 『都市美MAP金沢』が発行されました

この度、金沢都市美文化賞の20年間の受賞作品を全て収録した『都市美MAP金沢』が出版されました。市内を10のエリアに分け、222件の都市美文化賞の受賞作品に加えて、金沢市指定保存建造物、こまちなみなどあわせて427件が全て写真付きで紹介されています。

写真集としても十分楽しめる内容ですが、ぜひこの本を片手にまちに出て、金沢のまちなみの個性豊かな景観のエレメントを再発見してみて下さい。

●金沢都市美委員会発行　北國新聞社出版局発売
A5版　オールカラー　本体価格 1,500円

第2回 親子で歩こう!! 金沢のまちなみ

昨年九月二十七日の午後一時より、金沢市まちなみ対策課の主催で、「第二回 親子で歩こう!!金沢のまちなみ」が開催されました。今回は、卯辰山寺院群と東山が会場。当日はあいにく雨模様となりましたが、三十四組七十五名の親子が参加。各組には、受付でインスタントカメラと地図が渡され、「『赤門寺』として知られるこの寺の山門には、足が丈夫になるようにと願ってあるものがかけられています。その写真を撮って下さい」などの十二のクイズに従って、坂道の多い寺院群界わいを歩いていきました。

昨年に引き続いて参加したという人も多く、八日市町に住んでいるという母子は「ここへ来たのは初めてです。黒い屋根瓦が連なっているのがきれいですね。」と語り、また、大阪から転勤で来ているという両親と子供で参加した親子は、「道が狭いのでびっくりしました。繁華街のすぐ近くに緑があるのがいいですね。」と語っていました。

かなり強く降っていた雨も三時頃にはあがり、ゴールポイント近くのひがし茶屋街で記念撮影する姿も見られ、どの親子づれも金沢のまちなみの新しい発見を楽しんでいました。

おしらせ

・今年は、みなさんにまちの景観を身近なものとして感じていただくために、いろいろなまち歩きを計画しています。「まちなみ体験ウォーク」として、水と緑と明かりをテーマに3回シリーズで実施する予定です。まちを実際に歩くことにより、自分たちの住んでいるまちをもっと理解し、見直していただきたいと思います。ふるってご参加ください。

◎**第一回ウォーク　金沢の緑**（五月二十三日（土）の予定　健脚自慢の方を募集予定）

◎**第二回ウォーク　金沢の用水**（七月二十五日（土）の予定　親子を対象に募集する予定）

◎**第三回ウオーク　金沢の明かり**（十月二日（金）～四日（日）の予定　誰でも参加可）

◎**景観シンポジウム**（十一月下旬を予定　ウォーク参加者など）

・この「かなざわ景観だより」は、まだ若干の予備部数がありますので、もっとゆっくりとお読みになりたい方は、まちなみ対策課までご連絡ください。

・まちなみ対策課では、景観についてのみなさんの率直なご意見やご感想をお待ちしています。日頃感じているちょっとした思い、ふと見つけたすてきなまちなみなど、お気軽にお寄せください。

編集後記

今回号は、今年二月に開催しました歴史的景観都市シンポジウムを特集とさせていただきました。古い建物を、現在の社会の中で活かし続けるようにするにはどうすればよいのか。また、そこに人が住んでこそ建物は生きてくるものだと思いますが、どうしたら現代の生活水準にも適応した住まいにできるのか。問題はとても難しいのですが、みなさんとこのような議論をし、いっしょに考えることにより、金沢の伝統的なまちなみの保存にうまくつなげていきたいと思っています。

また、金沢には歴史的なまちなみのほかにも、魅力的な「資産」があります。それは、まちのなかを網の目のように流れている用水と、まちを包んでいる豊かな緑です。前回号で用水をご紹介しましたので今回は「斜面緑地」を取り上げました。

金沢のまちのなかには、このような魅力的な「資産」があふれているのに、まちの中心部では、道路が狭いことや敷地スペースが小さいことなどより、住む人が不便を感じているようです。「住む」ことについて、機能的に便利なことだけが追求されているようですが、「住む」ことには、もっと地に根をおろした考えがあっても良いのではないでしょうか。金沢市は、落ち着いたたたずまいのなかで、金沢を感じながら住んでいただくために、まちの景観を大切にした「住みごたえのあるまちづくり」を進めていますので、市民の皆様には今後ともご協力のほどよろしくお願いします。

TREE FREE
トータル・エコロジー・バランスに優れた21世紀の紙「ツリー・フリー・ペーパー」（非木材紙）を使用しています。